

阿久津市長と高校生の ほっとな対談



未来へ向かって!こんな渋川になってほしい

合併5周年を記念して、市内4つの高校に通う高校生の皆さんに、
“未来へ向かって!こんな渋川になってほしい”をテーマに、
阿久津市長と語り合っていました。

花と食とスポーツの まちづくりへ向けて

市長 合併から5年が経った渋川市では、“花と食とスポーツ”を中心としたまちづくりを進めています。

花ということでは、23年7月から10月まで「花と緑のぐんまづくり2011 in 渋川」を開催したところ、延べ20万人の人が訪れました。花は人を集められるということから、市内には花の名所がたくさんありますから、さらに増やして、1年中花が咲いているまちを目指します。

食については、付加価値のあるブランド化した野菜でないと売れない時代です。最近、アトピーや注意欠陥・多動性障害の子どもが増えています。その原因を農薬の影響であると指摘する専門家もいます。そこで市では、選別農薬農法での野菜づくりに取り組んでいます。また、竹林整備事業で伐採した竹を粉砕し、竹炭にして農地に還元することで安全でおいしい野菜ができます。その野菜を小・中学生の給食に使おうと考えています。

スポーツについては、スポーツタウン構想を考えています。構想には三つの柱があります。一つ目は、市民の皆さんの健康づくりです。二つ目は、若い人たちへの適切な指導です。三つ目は、スポーツ交流人口を増やすために、大きな大会が開ける施設整備を考えています。大きな大会を開催し、スポーツ交流人口を増やし、ながら地域経済を潤すことができます。

このように、渋川独自のまちづくりを考えています。高校生の皆さんは、いろいろな夢をもっているでしょうから、意見をお聞かせください。

就職率の低下に対策を

荒井 現在、就職活動をしています。とても厳しいと感じています。渋川市では就職率低下について、何か対策はありませんか。

市長 就職率はどの市でも厳しい状況です。市としても、学校や県、ハローワークなどと連携しながら、皆さんが就

問題になっていますが、何か対策はないのでしょうか。

市長 まちなかから商店がなくなったために、買物難民の問題が出ています。その人たちが買物できる方法として、まずは車での移動販売を考えています。宅配については、企業を見つけているところ

です。また子持地区で行われている、小・中学生のスクールバスの活用も考えています。昼間、スクールバスを福祉バスとして使い、一人暮らしの高齢者が、気軽に外出できるようにします。さらに、渋川独自のFM放送を考えています。FM放送で災害のときには、いち早く防災関連の情報を伝えることができます。災害だけでなく、市からの情報や自分たちが住んでいる地域の情報が入りますから、楽しみにしたいと思います。

花のあるまちに

狩野 里空 「花と緑のぐんまづくり in 渋川」の期間中は、市内にたくさんのお花が飾られていて、きれいだなと思いました。でも、駅から離れてしまうと花がなくなってしまうという声も聞きました。いろいろな場所に花があつたらいいなと思います。

市長 今回のイベントは市民の皆さんの意識改革が目標でした。メイン会場は2カ所だけでしたが、国道353号や赤城インター周辺などに、地域の人が花を植栽するなどして協力してくれました。小・中学生にも種をまいてもらって、花が咲くまで管理してもらいました。伊香保の石段に飾られた花は、小・中学生が

たは実現しそうな計画はありますか。

市長 平成23年度から3年間「NPO法人群大クラブ」によるスポーツ活動の支援が行われます。群馬大学の大学院生や国体選手に、小・中学校の部活やクラブを指導してもらおうというプログラムです。身体の成長期である小・中学生は、スポーツの専門知識をもっているコーチの指導が重要です。

中心街の活性化を

荒井 市の中心街がだんだん寂れてきているようですが、何か対策はないのでしょうか。

市長 現在考えているのは、交通弱者を中心としたまちづくりです。吾妻線と上越線が乗り入れている渋川駅を核に、車を運転できない小・中・高校生や高齢者が楽しめるまちにできないかと考えています。花と緑のイベントでは、ネイブルスクエアでいろいろなコンサートが行われました。高校生や一般の人のバンドなども参加し、盛り上がりました。そこで、県内にはアマチュアバンドなどがいっぱいありますので、あそこを発表の場にしてはどうか。土曜・日曜日に渋川に行くとか、何かやっている、おいしい物が食べられる。そういう、人が呼べるような、視線を変えたまちづくりを考えています。

一人暮らし高齢者への対策は

狩野 広人 赤城地区に住んでいます。周囲に一人暮らしの高齢者が多いと感じています。お年寄りの孤独死などが社会

市でも伊香保を観光地としてどんどん紹介しているようですが、都市開発はどのくらい進んでいるのですか。

市長 伊香保では石段街を延長しました。24年度には旧ハワイ王国公使別邸の復元改修も完了します。伊香保では毎年夏、ハワイアンフェスティバルを開催していますが、公使別邸を核としてハワイの自然や文化を伝えていきたいと考えています。また現在、伊香保の年間観光客数は100万人程ですが、150万人を目標にしています。

国際交流の機会について

今泉 中学生のとき、市の海外派遣プロジェクトでハワイに行きました。渋川市にはハワイのほかにもオーストラリアやイタリアに姉妹都市があります。英語圏以外にも関わる機会はあるのでしょうか。

市長 イタリアのフォリーニョ市とアバノテルメ市、アメリカ合衆国ハワイ州ハワイ郡と姉妹都市提携を結んでいます。オーストラリアのローガン市とは友好都市です。フォリーニョ市とローガン市とは、児童絵画作品の交換展示会を実施していますし、アバノテルメ市とは温泉を通じた交流を行っています。機会があれば海外派遣事業も行いたいと考えています。

スポーツ交流の計画は

石坂 中学、高校とバレーボールをやってきたので、スポーツ交流に興味があります。現在計画しているスポーツ大会、ま

職できるように取り組んでいます。市内の企業には、できるだけ地元の高校生を採用してほしいとお願いしています。また、関越道の渋川伊香保インターと赤城インターを核に新しい企業誘致を進めています。長野県に抜ける上信自動車道もできるので、川島地区にも企業誘致していきたいと考えています。

伊香保温泉の開発は?

割田 伊香保町に住んでいるので、伊香保温泉の観光開発について興味があります。



こんなまちになってほしいな「渋川」

渋川市がもっと暮らしやすい魅力あるまちになるために、将来の渋川に望むこと…



渋川女子高等学校
2年 割田 望美さん

伊香保温泉をもっとPRして、多くの人に知ってもらいたいです。また、福祉対策をしっかりしてもらい、人にやさしい渋川になってほしいと思います。



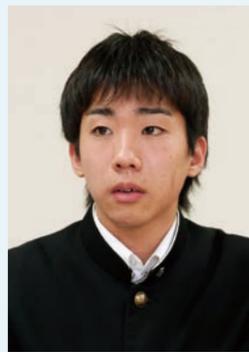
渋川工業高等学校
3年 荒井 彩弥さん

大人になっても渋川市で仕事をして、暮らしていきたいと思っています。そのためにも就職率をもっと上げてほしいと思っています。



渋川高等学校
3年 狩野 広人さん

人のつながりを大切にしてほしいと思います。すべての年齢の人が参加できる交流会のようなものができれば、つながりもでき、活性化すると思います。



渋川工業高等学校
3年 石坂 智明さん

高校で3年間バレーボールをしてきて、とても大きな力になりました。スポーツを通じて渋川市が元気いっぱいのもちになってほしいと思います。



渋川高等学校
3年 今泉 裕之さん

伊香保温泉では外国人観光客のために外国語の接客講座があると聞いています。国内だけでなく外国の方も楽しめる温泉地になってほしいと思います。



渋川女子高等学校
2年 柳岡 舞さん

「花と緑のぐんまづくりin渋川」のイベントのような、若い人たちから高齢者までが活躍できる機会を増やして、明るい渋川になってほしいと思います。



渋川青翠高等学校
3年 狩野 泰輝さん

まち全体が盛り上がり、大人になっても住み続けたいと思える渋川になってほしいです。



渋川青翠高等学校
3年 狩野 里空さん

市民が自分たちのまちのことを良く知っているまちであってほしいです。いまどんな都市開発が進められているかを知れば、もっとまちづくりに協力できると思います。

お祭りの盛り上がり

狩野 泰輝 毎年、渋川へお祭りに行っているのですが、他市町村の友達から、自分たちの町の祭りに比べて盛り上がりがないと言われました。まちを活性化するために、お祭りの盛り上がり大切にしたいです。

育てた花です。これを機会に、市民の皆さんが自分の家の庭や、周辺の路地に花を育て、地域全体でイメージアップしていければと考えています。渋川には、いつ来ても花が咲いている、花を楽しめる場所があるというようにしたいですね。



通学路に街灯を

柳岡 学校の通学路のことですが、主に下校の時、学校から駅までの道に不審者の情報が出ていたのを、最近よく耳にします。お店が開いているところは明るいのですが、ちょっと外れると街灯が少なくて暗いのが気になります。何か対策はありませんか。

公共施設に学習スペースを

今泉 渋川市には4つの高校があるので、

市長 街灯の設置については、各自治会からの要請を受けて設置しています。ただ、多くの設置要望がありますので、順次行っているというのが現状です。なお、下校時に合わせて、防犯パトロール車「青パト」を走らせるなど、防犯対策に努めています。

市長 渋川には、へそ祭りのほかに「渋川山車まつり」がありますが、1年置きな年開催できないかという意見も出ています。渋川山車まつりでは、3日間で10万人くらい来ていますが、毎年、日を決めて開催すれば、もっと多くの集客が期待できると思います。ただ、渋川山車まつりは自治会でやっているの、開催資金の問題があります。そこで、へそ祭り山車まつりを一緒にやたらどうかという人もいます。23年度のへそ祭りに3台の山車を出してもらいましたが、けっこう盛り上がりました。両方の予算をうまく組み合わせれば、毎年開催できるのではないかと考えています。

試験前になると図書館がすごく混みます。もっと公共の学習スペースがほしいと思います。公民館などに学習スペースを作ってもらえませんか。

市長 公共施設の空きスペースを活用するというのも考えられますね。使えるような施設があるか確認していきたいと思っています。

女性の活躍できる社会に

割田 なでしこジャパンの活躍など、今

対談を終えて

今日は、渋川の将来を背負って立つ若い皆さんの意見を聞くことができました。これからのまちづくりは、豊かさを追いつめるのではなく、普通に暮らせることの幸せを感じられるかどうかだと思います。それには、楽しみ方をたくさんもつことです。渋川市は、たくさんの方の楽しみ方ができるまちを目指しています。

そうしたまちづくりをしていくには、いろんな角度からものを見ていく柔軟性や想像力が求められます。さらに多世代、異業種の人たちが、垣根を取り払って協力することが大切です。

最後に皆さんに贈りたい言葉があります。それは「重さは力なり」という言葉です。その意味は、いろいろ

女性がすごく活躍しています。市では女性が活躍できる社会に向けてどんな対策を立てているのでしょうか。

市長 女性の意見を市の行政に反映したいということで、年に2回、女性との懇談会を開催しています。しづかお観光大使にも、森永一衣さん、生方ななえさん、加賀美幸子さんの3人の女性になってもらっています。伊香保温泉の若女将たちも化粧水をつくるなど頑張っていますので、市でも、さまざまな形で応援したいと考えています。

ろなことを経験しながら、その経験を次から次へと重ねて、らせん階段を登るように成長していくことです。イベントの時にはボランティアなどを体験してください。いろいろな経験をするのが、社会に出て役に立ちます。勉強だけしていたのではだめですよ。何をやってきたかを見る人は見てくれます。ぜひ、頑張ってもらいたいと思います。



渋川市長 阿久津 貞司